

広報誌 2024 春号

今回は「三重東リハビリテーションセンターもみの木」の特集です。4月1日（月）オープンしました。全員で力を合わせがんばっていきますので、よろしくお願ひします！

表紙写真・文：飯尾 文昭 副院長

ひがしの空から

～幸せな人生へのお手伝い～

CONTENTS

＊はじめまして、
三重東もみの木です

＊コロナ禍明け、そして、
小児科予約システムの変更
副院長 別府 幹庸

＊スタッフ紹介
マイペット紹介
編集後記

スタッフ紹介



診療放射線技師
長野 寛史

関愛会に入社して4年目になる診療放射線技師の長野です。地元は野津町ですが、その隣町である三重町も地元に近い存在です。実家から近いこともあり、もとも三重東クリニックは私のかかりつけのクリニックでした。そのため、今こうして働かせていただけることを感慨深く思います。また三重東クリニックは野津町の患者様も多く、親交のある方々に再会し、仕事中ですが思い出に浸ることがあります。私にとってやりがいを感じるときであり、生まれ育った場所でお世話になった方々と働けることが何よりも嬉しいのです。三重東クリニックの職員さん並びに地元の方々に
お世話になった分、その恩返しができるように診療放射線技師としての技能・知識の向上を図り、地域を支える人材になれるように努めてまいります。

マイペット 院長 宇都宮健志



6年半前、りんちゃん我が家の一員となりました。僕の一言で二晩サバイバルテストを強いられ、りんちゃんは水を飲む力も残っていませんでしたが、妻らの懸命な介抱で一命を取り留めました。

3年と9カ月前、妻の車のボンネットの中から子猫（ひな）ちゃんの声が聞こえてきました。何とか出てきてもらおうと努力し過ぎた僕は未だに懐かれています。



今ではりんちゃん・ひなちゃんに関する話がなければ、妻との会話は……。この二人が家族に欠かせない潤いを与えてくれています。特にりんちゃんは、僕が帰宅すると、いつも玄関まで迎えに来てくれます。仕事の疲れも一瞬で吹き飛びます。

りんちゃん、ひなちゃん、これからずっとずっと元気でいてね！



編集後記

「足ることを知る者は富めり」（読み：たることを知るモノはとめり）は、老子の言葉ですが「存じでしょうか。『満足することを知っている人は、本当の意味で裕福な人である』という意味だそうです。

物質的な豊かさではなく、精神的な豊かさの大切さを語った言葉です。自分が持っているものを大切に、その状態に満足することで、毎日が明るく幸せなものになるということです。

日々生きていると、さまざまな面で嫉妬や羨望を感じることがあります。「あの人は何でも持っていて羨ましい」「自分は一生懸命していてもさっぱりだ」「そんなふうにしてしまえば落ち込んでしまいますね。これは、他人と比較するからこそ生まれてくるネガティブな感情です。そのネガティブな感情をエネルギーに変換すればよいのですが、実際他人と比較することは止められないものです。

そんなときは、自分が持っているものに注意を向け、その二つに感謝をしてみたいでしょうか。『今ある幸せ』に気づくことができると、自然に感謝の気持ちが湧いてきます。『足ることを知る』ことからすべてが始まるような気がします。

事務長 後藤 稔



広報誌『ひがしの空から』

発行：社会医療法人 関愛会 三重東クリニック

〒879-7104 大分県豊後大野市三重町小坂 4109-61

Tel.0974-22-6333 Fax.0974-22-6341



三重東もみの木オープン

令和6年4月1日、清川町で約13年間運営していました「きよかわもみの木」が三重町に移転し「三重東リハビリテーションセンターもみの木」として開設しました。「三重東もみの木」は、介護保険の認定を受けた方が利用できる介護保険サービスのの一つです。ご自宅などから事業所へ通っていただき、パワーリハビリやレッドコード、リハビリ専門職による個別指導などのリハビリや介護支援を受ける事ができる事業所です。

主なりハビリ機器は、「パワーリハビリ」です。「座る・立つ・歩く」という3つの基本的な日常動作に必要な筋肉(動かさないうことで、動かなくなった筋肉)を徐々に無理なく動かす事を目的としています。

パワーリハビリのポイントは、軽い負荷にあり、マシントレーニングが心臓に与える負担は、入浴よりも少し軽い程度にとどまります。

次に「レッドコード」です。天井から下げられた赤いロー



リハビリコーナー



レッドコード



プを使って行う運動療法、またはその器具を指します。レッドコードを使用した運動は、体への負担の割には通常の運動より負担や苦しさを感じることが少なく、効率的に楽しく効果を上げていくことができます。

また、要介護1〜5の認定を受けた方で、計画に基づいて、自宅で入浴する事を目指しながら、入浴支援を行います。当事業所の環境として2種類あります。機械浴(座位タイプ)は、車いすで過ごされている方などが、体にかかる負担を出来る限り少なく入浴できます。

さらに、もみの木ではいろいろな事にチャレンジしていただきたいと考えて、ご利用者様の計画などに基づいて、様々な事に取り組んでいただきたいと考えています。その一つとして日替わりで園芸・木工・習字などの「活動プログラム」に取り

組んでいきなす。畑もあり、土作りから、苗植えや種まき、草取りから収穫まで、ご利用者様と一緒に取り組みたいと思います。毎月プログラムに取り組み内容などを掲載していますので、合わせてご覧ください。



機械浴

組んでいきなす。畑もあり、土作りから、苗植えや種まき、草取りから収穫まで、ご利用者様と一緒に取り組みたいと思います。毎月プログラムに取り組み内容などを掲載していますので、合わせてご覧ください。

昨年行われた起工式では、当法人の増永理事長より「もみの木は『できる事を増やして』やってみたい事にチャレンジする」という自立支援を目的とした「もみの木ブランド」を持っています。新たに三重町の地で、このミッションを実現できるように「もみの木ブランド」を作りあげて、広めていきたいと思っています。」と挨拶がありました。

もみの木では「活き生きチャレンジ」として、ご利用者様の目標に沿って、ご利用者様の「〇〇をしてみたい」に取り組んでいただけるよう、もみの木内でのリハビリだけでなく医師・作業療法士・介護福祉士・看護師などの専門職チームで、ご利用者様のできる事や能力を評価して、できる事はもみの木内でも行ってもらい、過度な介助はせずに「自立支援」を念頭に置いた支援を行っています。

最後に現在きよかわもみの木をご利用



佩楯山を見渡せる展望台

コロナ禍明け、そして、小児科予約システムの変更

2019年12月に中国武漢にて始まったSARS-CoV-2(新型コロナウイルス)の世界的大流行で、3年ほど大変な毎日でした。2023年5月8日から日本での感染症法での取り扱いが第2類から第5類へ分類変更となり、ほぼコロナ禍は終わったものと思われま

この新型コロナウイルスは非常に感染力が高く、空気感染に近い感染様式を示しましたので、感染対策には非常に気を使いました。小児科では当初、感染予防のため駐車場での診療をはじめました。車にのったままの診療です。最初は、建物の中の診察室から車に行き診療していました。そのころは、新型コロナウイルスのPCR検査も抗原検査も院内ではできず、検査が必要な場合は保健所を通じて厳重に密閉した容器で検体を検査センターに運び半日して結果が返ってきていました。

そのうちに、院内での核酸検出検査ができるようになり導入しましたが、診療のために駐車場の片隅にプレハブを建てて検査などを行いました。株の変化とともに感染は急拡大し、かなりの数の検査が必要でしたが、限られたスタッフでこなしているため診療できる人数を制限する必要がありました。その時に、それまで順番制で診ていた小児科診療を、時間枠制にせざるを得ませんでした。30分で4名という枠で

行いましたが、検査や感染対策のため1件あたりの時間が大幅に伸びて時間内に終わらないこともしばしばでした。

その後、2023年2月16日からは、建物の中、小児科待合室の一部を改装し3つの隔離診察室を作り感染症診療を始めました。そしてしばらくは時間枠で30分に4名の診療で何とか皆様のご要望に応じることができていました。しかし、2023年5月第5類に分類変更があつてからは、それまで「鳴りを潜めていた」インフルエンザやアデノ、ヒトメタニューモなどのあらゆるウイルスが流行し、感染症の患児が急増し予約枠が埋まってしまい、連絡をいただいても診察することができない(予約をお受けできない)事例が頻発しました。

当然、このままの状況を放置できませんので、時間枠内での予約できる数を増やしたりしましたが、抜本的には改善できず、もとの順番制での予約システムに戻すことを決定しました。

しかし、ここで問題が発生しました。順番制では予約の時間が設定されないため、順番が近づくともうすぐ診察になります」というお知らせをしなければなりません。2年半の時間枠予約で、お知らせするメールアドレスを設定していない患者さんが増えていて、そのまま順番制に移行することが非常に難

小児科 別府幹庸

しいということがわかったのです。

そこで、予約システムの業者に相談しました。今は皆様、連絡用のツールとしてLINEを使用している方々が増えています。そこで、診療のお知らせをする手段として、LINEとメールを併用しお互いに補完するようにして順番制に戻すことにしました。

小児科を最近受診された患者さんはもうお気づきと思いますが、予約する際に、①3日間以内の発熱、②インフルエンザ、コロナ患者との接触、③新型コロナウイルス、インフルエンザの検査希望をお尋ねしています。これは、隔離診察室での診療にするか?どうかを決める項目になります。一つでも「はい」があれば、隔離診察室にて診療するようにしています。また、連絡用の携帯番号とお車の情報をいれていただくのは、いらっしやった際に確実に連絡をとるためのものです。以上の情報を入力していただくことで、確認するための時間が省かれ、診療に割く時間を増やすことができます。多少、面倒をおかけしますが、入力していただければ幸いです。

そして、システムを大幅に変えるのであれば、患者さん方の利便性を改善したいとの思いから、予防接種予約においても母子手帳の接種歴を入力していただければ、次にどの予防接種を予約できるのか?いつまでに接種しないとい

けないのか?などがわかるシステムも導入しました。このシステムを使えば今まで、電話をかけた後、母子手帳を持ってきたりして、次の予防接種は何ができるのか?を聞いてもらっていました。それは必要なくなります。(ただし、最初に母子手帳の情報をシステムに入力していただかなくてはなりません。ご予約の日にも、予約する予防接種も1回のアクセスで終了します。

また、診察券もスマホに入れることができます。「スマート診察券」という機能ですが、これを登録しスクリーンショットで撮っておくことで、スマホに診察券を表示することができます。感染症でない通常の診察の際には、このスマート診察券を読み取り装置にかざすことで即座に受付することができます。

まだまだ、システムを変更して日が浅いので、いろいろな問題が生じる可能性はありますが、一つ一つ丁寧に問題をクリアして、なるべく多く患者さんに気持ちよく小児科を受診していただくよう努力していきます。どうかよろしく願ひします。

